

# 国産材を使用した200年住宅で 建設不況を克服し新たな市場開拓!

＝ 国産TF工法の採用により、健康的で長期間使用可能な住宅の製造販売への取組み ＝

経営革新事例

支援機関: 八幡浜商工会議所

支援内容: 経営力の向上支援

支援区分: 経営革新

## 昭和建設 有限会社

### Information

#### 【企業概要】

社名: 昭和建設有限会社  
代表者: 代表取締役 氏間 和昭  
業種: 建設業  
所在地: 八幡浜市向灘352番地  
資本金: 5,000,000円  
設立: 昭和52年4月  
従業員: 11人



地域資源活用事例

農商工連携事例

見えない資産活用事例

#### ◆ 当社設立の背景、動機

昭和52年、氏間和昭氏は八幡浜市向灘に「こだわりのある家造り」をコンセプトに今の昭和建設を創業し、昭和56年には八幡浜市向灘に工場を増設、事業を拡張した。当初から、最新技術の導入を積極的に行い、プレカット加工機やCADなどの導入は南予地区では最初に導入している。最新機械の導入でコスト削減に成功し、不動産業者や大手建設業者からの信頼も厚く、売上も伸ばしてきた。また、2×4工法やパネル工法などの最新工法を習得し、お客様のニーズにこたえる家づくりを目指した。平成8年より一級建築士である次男貴則氏が、設計部門を担当するようになり、「創意と工夫」をコンセプトに独自のオンリーワン技術を開発し、提案型企業に脱皮し、受注も飛躍的に増加してきている。

しかし、最近の不況により、南予地方での新築

着工件数も減少しており、現在の売上・利益を確保することが困難な状況となっている。そこで、八幡浜市のみならず新規市場である松山市も視野にいたれた新製品開発、市場開拓戦略を展開することとした。日本の住宅は、乾燥技術や加工技術の問題で10.5センチメートル柱の輸入材が使用されていることが多く、19センチメートル以上の柱で建築されている欧米住宅の耐用年数の200年に対し30年と短い。また、合成樹脂を材料とする新建材には、樹脂、ビニール、接着剤などの石油製品や、防カビ・防虫剤など人体に有害な化学薬品が大量に使われており、今問題となっているシックハウス症候群やアトピーなどの原因が、これらにあると考えられている。日本の住宅は、長期間使用可能住宅と健康を守れる家づくりが課題となっている。

## ◆ 事業概要

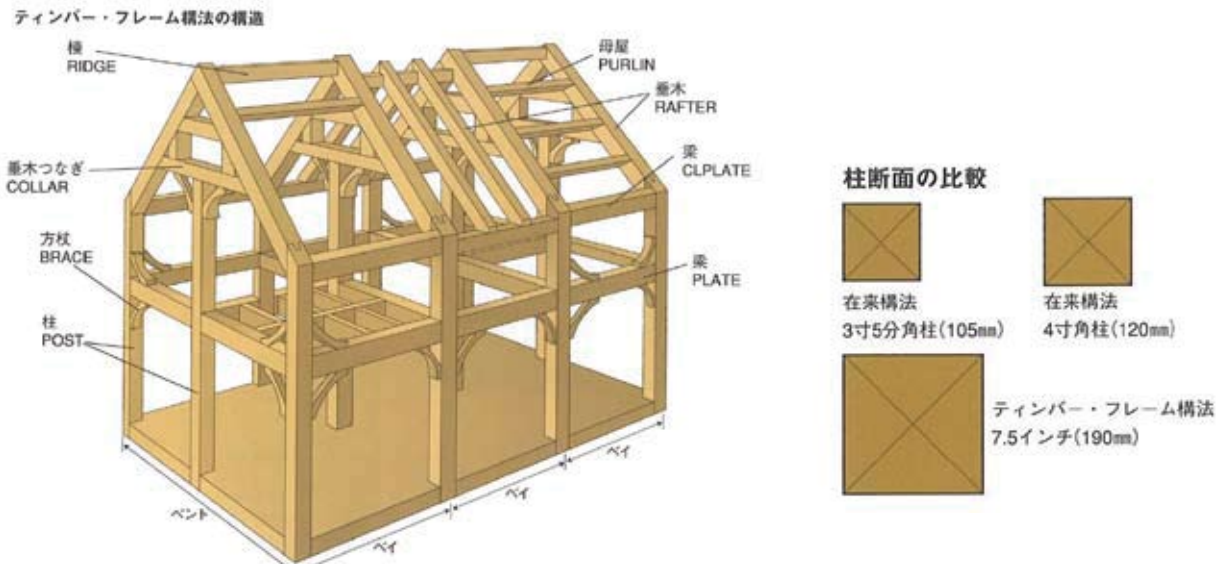
超長期化住宅と国産材を利用した住宅を提供できないものかと、貴則氏は模索してきた。そこで発見したのが、国産材を使用したティンバーフレーム工法(以下「TF工法」という。)である。TF工法によって、200年耐久可能な住宅を提供できるようになる。建築方法としては、国産材を使用し、柱や土台に19センチメートル以上の角材を使って、建物の骨組みを作り上げるのが特徴だ。

TF工法の第一人者である松岡在丸氏に直接ご指導いただくこととなった。

このTF工法により、既存の住宅価格よりも約100万高くなるが、200年超住めることができるようになり、顧客に受け入れられる住宅であると考えられる。これにより、売上だけでなく利益率も約10%改善が見込まれ、雇用の拡大も期待できる。

## ◆ 主な事業内容

- ① 松岡氏と協力関係にある宮崎県の製材所より、資材を仕入れる。
- ② 19センチメートル以上の角材を利用し、TF工法によるオンリーワン住宅を販売する。



500年以前に建てられた、シェークスピアの生家(イギリス)もティンバーフレーム工法

## ◆ 拠点の具体的な支援内容

### ① ビジネスプランのブラッシュアップ



最初に訪問した際に、経営者は現在の建築業の不況から脱却し、八幡浜の経済の活性化と雇用の拡大に貢献したい強い思いがあった。しかし、今回の事業構想を成功させるためには、次のような検討課題があった。

#### 【主な検討課題】

Point

- ◎当事業についての全体の売上・利益目標、事業内容、キャッシュフローと資金計画を明確にすること。
- ◎人材の確保と教育について、明確な教育体制を構築する必要性を検討すること。
- ◎必要な資金調達、社員の採用と人員計画、販促手段とその時期などについて明確にすること。
- ◎その他、必要な調査に関する時期や費用を検討すること。

### ② 愛媛県建設産業経営革新等助成事業費補助金へのサポート



上記の作業をすすめていく上で、事業の新規性や地方の活性化などで公的な支援制度が活用できないかを検討する。

上記補助金が該当するのではないかと提案したところ、是非挑戦したいとのことだったので、申請書のブラッシュアップに関してサポートした。

### ③ フォローアップ

氏間貴則氏の熱意と努力が実り、平成20年度愛媛県建設産業経営革新等助成事業費補助金の対象事業として採択された。

また平成20年11月には、経営革新計画事業として承認された。

経営革新事業の進捗把握等により、当事業活動全体の支援のため定期的に訪問していく予定である。

## ◆ 拠点を利用した事業者の声

事業内容を計画書に記載していくことが、どれ程大変であるのか再認識しました。頭の中で考えていたことを文書にすることは大変ではありましたが、文書化することで頭の中が整理でき、又今後、事業を考えていく上で大変役に立ったように思います。

申請書の書き方や内容について、親身になってアドバイスをいただいた、商工会議所経営支援センターの応援コーディネーターや経営指導員のご指導に深く感謝しています。今後も、経営支援センターから情報提供やアドバイスを受け、八幡浜地区の活性化と発展に寄与したいと思っておりますので、宜しく願い致します。

今回、当社が採用するTF工法を、将来的には県産材を利用したものにし、さらに独自の加工技術を身につけ、八幡浜地区だけでなく松山市などへ需要の拡大も見込んでおります。



今後も、居住者にとって最もふさわしい住宅の提供に努力していきますので重ねて宜しくお願いします。

経営革新事例

地域資源活用事例

農商工連携事例

見えない資産活用事例

Staff voice 

## ◆ 支援に携わったスタッフの声

現在の建設業を取巻く環境は、公共事業の伸び悩みや民間住宅着工件数の減少など厳しい状況が続いています。そのような中で、氏間貴則氏との出会いがあり、それは青年実業家として夢と希望を感じた日々であり、私自身多くのものを吸収できた期間でありました。

氏間貴則氏は、ブログを日々更新され、毎日20~30件のアクセスと、そのブログからの発注もあるということです。2千万~3千万もする住宅を、ブログを見て発注されるのであるから、よほどブログの内容が優れているのでしょう。また、氏間氏は、常に最新の建築に関する情報を獲得するため、業界誌やネット情報などをこまめにチェックしており、その姿勢は見習うべきものがあります。

今回の補助金申請から経営革新申請など、初めてで慣れない仕事で幾度となく書き直しをしていただきましたが、嫌な顔もせず素直

に指導に従い、熱心で作成されたことには頭が下がる思いでした。今回のビジネスプランの作成で、



応援コーディネーター 西村 修造

これまで頭の中で考えられていたことが、整理できたのではないかと思います。

今後、多くの問題・課題が発生すると思いますが、今回のビジネスプランの作成方法を取り入れて、その対応策を文書化することをお勧めします。今後も引き続き必要なフォローをさせていただくつもりです。常にお客様が安心して長く暮らしていける住宅を提供していただけることを願っています。